

2023年(令和5年)は新美南吉生誕110年！ PRポロシャツ&トートバッグを販売します



▲半田市観光協会
ホームページ

新美南吉生誕110年をPRするための、ロゴマークとグッズデザインを募集する「新美南吉デザインコンテスト」を開催し、最優秀賞・優秀賞が決定！最優秀賞のデザインをあしらった「ポロシャツ」と「トートバッグ」を販売中です。ぜひご購入いただき、新美南吉生誕110年を一緒に盛り上げましょう！

【ポロシャツ】

- ◇販売価格 2,500円(税込)
- ◇カラー ブラック、ホワイト、メトロブルー、ライトブルー、ライトピンク、ライトイエロー、カーキ、ミックスレッド(全8色)
- ◇サイズ SS、S、M、L、2L、3L

【トートバッグ】

- ◇販売価格 1,500円(税込)
- ◇カラー キャンバス生地(インク色は、黒、オレンジ、パステルブルーの全3色)
- ◇購入方法 5月20日(金)までにQRコードからお申込みください。
- ◇引渡し開始日時 6月1日(水)10時～30日(木)にアイプラザ半田で引き渡しになります。(9時～17時)

※なくなり次第終了となりますので、お早めにご購入ください。
☎ 半田市観光協会 ☎32-3264



◆デザインコンテスト最優秀賞の紹介◆



ロゴマークの部
最優秀作品

作者：友弘 勝之さん
(39歳/東京都中央区)



PRグッズデザインの部
最優秀作品

作者：神谷 真由美さん
(38歳/愛知県安城市)

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第60回 南吉とプロレタリア文学

新美南吉がプロレタリア文学に夢中だった、と聞けば意外に思う方が多いでしょう。プロレタリア文学といえば、資本主義の矛盾と労働者の厳しい現実を描き、彼らの階級的自覚と団結を促そうとする文学で、日本では大正後期から昭和初期に流行しました。童話作家の南吉がどうして?と不思議に思うかもしれませんが、東京外国語学校の2年生だった20歳の日記を見ると、そこからはプロレタリア文学への強い関心がうかがえます。

「河崎が『プロレタリア文学』と云う雑誌をかしてくれたので読んでみた。小林多喜二のことが一ぱいかいてある。考えを変えなくてはならぬ。在来の童謡とか童話とかをどうのこうの言っているのは、何も知らない馬鹿の様な気がする。思想的になやむとはこんな事か。」(昭8.5.27)

小林多喜二と言えば「蟹工船」。北洋漁業の現場で奴隷のように酷使される労働者を描いた小説です。世界各国で翻訳され、2008年には当時の日雇派遣やネット難民の実態が「まるで現代の『蟹工船』だ」と注目されブームにもなりました。

そんな「蟹工船」を意識して書いたのではないかと推測される南吉童話に「一枚の葉書」があります。多喜二が特高警察の拷問で亡くなった翌年の昭和9年5月に書かれた作品で、冬の北海道を舞台にたった一枚の葉書を届けるために雪山で遭難死してしまう少年配達夫の物語です。これがどう「蟹工船」と繋がるのか。気になる方は現在開催中の企画展「一枚の葉書」は「蟹工船」のオマージュか?」をぜひご覧ください。(詳しくは24ページを参照してください。)

新美南吉記念館長 遠山光嗣



「蟹工船」戦旗社 昭4